

令和4年11月25日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それではただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長よろしくお願いたします。

◆市長

はい、よろしくお願いたします。皆さんご承知の通り、山が動き出しましたね。プロ野球界が裾野の拡大に動き出したことを、地方創生の観点からも歓迎したいと思います。昨日、日本野球機構、NPB、オーナー会議の後の会見で、プロ野球ファームリーグ拡大構想が発表されました。報道によりますと、静岡市を本拠地としたチームの設立の申し出があったということであります。私自身12年前に初めて市長選に出馬する時に、地元プロ野球球団の創設を公約に掲げました。以来プロ野球12球団合同トライアウト、フレッシュオールスターといった大規模イベントを開催することをはじめ、その機運を高めてまいりました。先週末は大学・高校の選手に対して機会を提供するというオータムフレッシュリーグも開催しました。そんなことを、下支えをしながら機運を高めてまいりました。その成果が今回の話に結び付いているものと大変喜んでおります。野球界の裾野を広げ、今、野球に励んでいる子どもたちが将来プロ野球の選手になりたいという夢を持つチャンスを広げるためにも、より多くの方々に野球の魅力を届ける努力をしなければならない、というNPBの構想に大いに賛同するとともに、今後の議論を見守ってまいりたいと思います。今は日本代表がドイツに勝ってサッカーが盛り上がっております。サッカーも頑張れ、野球も頑張れ、バスケットも頑張れ、4次総においてスポーツを通じたまちづくりということに力点を置く静岡市にとっても、これは朗報でありました。

以上、今日のアイスブレイクとして、これを話題にさせていただきましたが、今日の主役は、これではなくて、静岡市海洋地球総合ミュージアム落札者の決定についての話題でありますので、そちらのほうに移りたいと思います。

スライドを用意いたしました。「世界に輝く静岡の実現」という都市目標を達成するために、第3次総合計画に基づいて、いわゆる5大構想を着々と進めてまいりました。例えば5大構想の一つ、「歴史文化の拠点づくり」においては静岡市歴史博物館の整備を進め、いよいよ来年の1月にグランドオープンを迎えます。そして、清水都心をターゲットにした「みなとまちしみず」ですね、それを輝かせるための構想の象徴的な事業、海洋文化の拠点づくりの象徴的な事業が、この静岡市海洋地球総合ミュージアムであります。これもご承知の通り新型コロナナ

ウイルス感染症の拡大の影響によって、感染拡大防止に予算を振り向けなければいけないという事情があり、この3次総を象徴する大規模事業は一旦停止を余儀なくされましたが、この海洋文化施設も3年半後の令和8年4月のオープンを目指し、今年度より、リスタートを切りました。

次のスライドをお願いします。この海洋地球総合ミュージアムは国際海洋文化都市としてのブランド化、国際的な集客と賑わい創出、海洋分野を開く研究教育の促進、海洋産業の振興と経済波及という四つの役割を果たすミッションを持っています。この四つの役割を果たすことのできる海洋地球総合ミュージアムを整備、そして運営する事業者の公募を5月31日から開始、10月24日までに事業提案書が提出をされ、このたび学識経験者をはじめとした皆さんによる審査会、そして庁内での業者選定委員会を経て、落札者が決定をいたしました。

次のスライドをお願いします。落札者は株式会社乃村工藝社を代表企業とする9者で構成された事業者グループであります。それぞれの専門分野を持った企業と水族飼育を行う東海大学、そして最新の海洋研究の成果の提供などをお願いする文部科学省所管の国立研究開発法人海洋研究開発機構、略称JAMSTECではありますが、相互に連携して設計、そして建設までの今後3年間、そして、その後の維持管理運営の15年間、合計18年間の事業を担っていただくこととなります。

次のスライドをお願いします。ここがすごく大事であります。この施設の理念であります。事業者グループの示す理念は「駿河湾とつながるみんなのキャンパス」と決めました。この理念の下で、駿河湾とつながる多様な生命や人々との出会いを通じて、地球環境と海洋、そして人とのつながりを探求する楽しさを伝える取組を、この海洋・地球総合ミュージアムで行っていきます。まさに清水にふさわしい施設だと思います。そして、これは水族館機能と博物館機能を併せ持ったハイブリッドの施設であるだけでなく、地域の子どもたちや学生、そして研究者、そして観光客をはじめとする、ここを訪れる全ての皆様が、学びを通して、驚きを通してつながりあって、その人々のつながりが「みなとまちしみず」のさらなる魅力となり、その魅力が求心力となって、世界中から人の集まる清水、そんな場所にしていきたいという思いが込められています。

さて、次のスライドは外観のイメージであります。上空から俯瞰したこのミュージアムが建設された後の清水港の日の出地区一帯を表したものであります。日の出地区は清水港発祥の地であります。その日の出ふ頭はポストコロナの時代、国際クルーズ船がまた増えてくるでしょう、周りの観光資源とも連携しながら、市民の皆さんや観光客の皆さんの賑わいの拠点となる施設として整備を進めてまいります。もう一つの外観イメージをお示しします。これは、この

ミュージアムを、入口エントランスを斜め右側から見たイメージ図であります。この場所の北側にはエスパルスドリームプラザが立地しております。また、クルーズ船の発着場である清水マリナーミナルもあります。その間に大きな芝生広場を設けてあります。ここに空間を設置することで思い思い、ここでくつろいでほしい、集ってほしい、そして楽しんでほしい。ここを訪れる皆さんが思い思いの時間を過ごせる自由度の高い空間として整備してまいります。

次に今度は内観のイメージを紹介をします。こちらはエントランスロビーのイメージ図です。このクジラに見覚えのある皆さんはいらっしゃいますか。地元の方には大変思い入れの深い、私も小学校の時からこの海洋博物館には通いましたので、思い入れのいっぱい詰まった東海大学海洋科学博物館所蔵のピグミーシロナガスクジラの骨格標本です。これが皆様をお迎えいたします。先ほどの芝生広場からつながるようにして、エントランス全体を使って駿河湾を表現していきます。というのは駿河湾の特徴の一つは、段々畑のように浅瀬がつながる地形、石花海といいますが、この石花海をこのエントランスのここで表現をしていきたい、その上をクジラが悠々と泳ぐ、そんな姿をイメージしたものであります。このエントランスを訪れた方が、あたかも駿河湾の石花海を舞台にクジラと戯れているかのような風景を生み出す提案となっております。

もう一つ内観のイメージを紹介します。こちらは2階から4階に向けてのイメージです。建物は5階建てです。延べ床面積はおよそ8,500メートルあります。主な展示エリアは2階と4階ですが、3階には書物や標本などを手に取って調べ物をしたり、くつろいだりできるライブラリギャラリースペースを用意しています。また最上階の5階は、もちろん駿河湾や富士山を一望できる展望エリアとして活用していきます。もう一つ内観のイメージですね。そして、2階と4階は展示エリアです。「集う」「出会う・探求する」「発信する」、この三つのエリアで構成され、それぞれ回遊ができるように計画されております。2階の導入エントランスを進むと着く「集うエリア」には、このミュージアムの目玉である沖合大水槽が出てきます。この沖合大水槽というのはすごいんですよ。

次のスライドをお願いします。今回の提案の核となるこの巨大な水槽は水量1,700トンであります。これは日本国内でベスト5に入る大きさを誇ることとなります。訪れる皆さん方は駿河湾の沖合を回遊する外洋性のサメをはじめとした、ダイナミックな海洋生物と出会うことができます。そして、学術面、研究面という点でも大型魚種の飼育など、さまざまな魚種の飼育にもチャレンジすることができる、超大型水槽であります。この沖合大水槽を、ミュージアムをより多くの皆さんに訪れていただける目玉、シンボルとしてPRしていきたいと考えております。

もう一つ内観のイメージのスライドをお願いします。そして、このミュージアムのいわゆる博物館機能を担うのが、4階の「出会い・探求するエリア」の中央に位置する、名付けて「海洋と地球のディスカバリーラボ」であります。

次のスライドをお願いします。このラボではビジュアルにグラフィック解説をし、作りこんだ映像の展示をして、そしてエンターテインメント性を高めていく。オープンの直後からこういうものってどんどん陳腐化していきますね。でも、リピーターも獲得していかなければいけません。そんなところで固定的な展示をするのではなくて、年々展示の内容を進化させていく。そして、その展示内容を説明するコミュニケーター、人材を常時配置することによって、その人のレベルに合って、関心に応じて、その展示内容を説明するコミュニケーターの皆さんが、この港と清水、駿河湾と清水、その土地や駿河湾の海に関わる文化、歴史、そして、人々の暮らしなどを伝えていく役割を果たしていただきます。

さらに研究者やミュージアムスタッフの手によって撮影されたフィールドワークの映像をすぐに投影できるような、汎用性の高い映像システムの導入も計画されており、研究者が生で解説することによって、来館者があたかもフィールドワークに同行したような臨場感や研究の楽しさが伝わる体験が提供されます。将来、子どもたちがこのミュージアムを訪れることによって、海に関心を持っていただき、将来自分もこんな仕事に就きたいとかね、海洋学部に行ってみたいなど、そんなふうに感じてもらえれば大変うれしく思っています。次のスライドをお願いします。これはオープンバックヤードのイメージです。沖合大水槽の上の部分ですね。上部や飼育員の作業スペースなどを“見える化”します。見せる化、参加できる、こんなバックヤードとして公開をしていくことも計画しています。これは来館される皆さんがバックヤードで飼育員や研究者と交流できる体験プログラムなどを通じて、海洋文化への多様な気付きや発見、好奇心の喚起につなげていき、海に関心を持つ人材の育成に貢献したいと思います。日本平動物園も、このバックヤードツアーを時々やるんですけど、大変好評なんですよね。普段、見られないところを見せることによって、子どもたちもより関心を深めていくという、そんな仕掛けを目指してまいります。

結びにスライド15をお願いします。国際海洋文化都市の実現を目指し、駿河湾をテーマに東海大学やJAMSTECとも連携しながら、水族館機能と博物館機能を融合させた世界水準のミュージアムを整備するための準備を進めてまいりました。今回の提案は来館者の皆さんと飼育員、研究者の皆さんの交流や、1,700 トンの大水槽の設置など、事業者グループのさまざまな創意工夫や運営維持管理を見据えた効率化などの手法が取り入れられており、教育と研究といった公益性と、施設運営を継続するといった事業性、私がいつも公益性と事業性の両立がこれからの公共施設のビジネスモデルだよ、と伝えてありますけれ

ど、それになかった公民連携で双方に Win-Win のメリットがある提案であると評価しております。

今後は、まずは落札者との契約について、来年2月の市議会定例会にお諮りし、水族飼育を担っていただく東海大学とも協議を重ねながら、令和8年4月のオープンに向けて取り組んでまいります。私からは以上です。

◆司会

それではただ今の海洋・地球総合ミュージアムの関係につきまして、皆様からご質問をお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。NHKさんお願いします。

◆NHK

NHKです。なるべく市長にお答えいただきたいと思っております。今回の入札、参加事業者は何者ありましたか。

◆市長

私答えていい？1者です。

◆NHK

入札にもかかわらず競争にはならなかったということですね。そのことはどう受け止めてますか。

◆市長

やっぱりコロナ禍で経済情勢厳しいということもありました。そんな流れの中でやはり思いのある企業が入札に応じてくれたものだと、私は承知しています。

◆NHK

以前ご発言いただいておりますけれども、資材高騰の中でこの169億円、そして、入館者数が想定を下回った場合の10億円のロスシェア。このこれまでに議決されている予算以外に事業費を積み増すことはないかと断言できますでしょうか。

◆市長

これは、これから議会に諮って、議会でも議論をいただいております。

◆NHK

すいません、以前この質問した時には事業費の積み増しありません、と明言されてるんですけど、どうして今日になって言い方変わったんでしょうか。

◆市長

いや、同じ質問なんですか。

◆NHK

はい。

◆市長

そしたら負担はありません、原則。

◆NHK

原則？

◆市長

そうです。

◆NHK

原則というのはどういう意味ですか。

◆市長

だって、ご承知の通りコロナ禍だって私たちは見通せない、そういう状況じゃ、それによって感染対策に予算を振り向けたり、いろんな創意工夫っていうのはその現場、現場、その時々によりますよね。ですから、これからどういう経済情勢になるかも分からない。そういう流れの中で、それは今からこうすると断定はできない、それが今の時代の不透明さではないでしょうか。ご理解をください。

◆NHK

経済情勢によっては、また事業費を、大浜公園のように何十億円積み増しますということがあるんですか。

◆市長

それは公共経営も時代に応じて、いろいろな取り組みをしてかなければいけません。それは常識であります。

◆NHK

やはり以前この質問に対してお答えいただいた「ありません」という言葉とは

違うと思いますが、どうして方針がぶれたのでしょうか。

◆市長

だからぶれてないです。ですから原則ありません。以上です。

◆NHK

これコロナを踏まえて、市長が事業の再開を決定したものであり、それはもう考慮した上でのことですよね。そして、資材高騰も考慮した上での話ですよね。

◆市長

あなたの考え方は私、受け止めさせていただきます。しかし、私たちの提案は市民の代表である議会の皆さんに議論していただきますので、その議論に委ねたいと思います。

◆NHK

議会で議論するとしても事業費の積み増しがもしあるとすれば、それは市長からの追加議案の提出になりますので、まず市側はどう考えてるんですか。

◆市長

今回の上程議案について、それはありません。

◆NHK

2月の段階でもないですね。2月の段階でも169億の…

◆市長

何の？

◆NHK

2月議会の段階でも…

◆市長

ありません。

◆NHK

で、その後さらに物価高騰など経済状況の変化があるようだったら、169億円じゃ造れませんということで、事業費を積み増すことはあり得るということで

しょうか。

◆市長

統括監お願いします。

◆海洋文化都市統括監

海洋文化都市統括官の杉山でございます。先ほどの記者のご質問なんですけれども、2月議会でお認めしていただいた債務負担行為限度額には需要変動や物価変動、ならびに消費税等、そういうものの増減を加算した額ということでお認めいただいておりますので、今、認めていただきました限度額に関して、それよりもさらに上回った額を計上するということはないということで、ございます。以上です。

◆NHK

分かりました。ないと受け止めます。そして、これも市長の方針のぶれだと思っておりますけれども、ちょうど半年ほど前、私会見で、市の当初の方針が合計で1,000トンぐらいに収まるように、比較的小さな規模の水槽を並べるという話だったので、私が、お客さんを集める上では大水槽が必要なのではないか、というような趣旨の質問をしましたところ、市長は「大きな水槽にするという方法もあるだろうし、他の方法もあろうかと思う」と。「大型水槽を作る必要があるかどうか、コストの面との勘案が大事だ」と、なんと言いますか、知ったふうなことをおっしゃってましたけれども、結局、事業者の提案によって1,700トンの水槽が作られるというのは、どうして、半年でこんなに提案がぶれるんでしょうか。

◆市長

私のぶれではありません。これはPFI事業として事業者が提案をする、私もやはり、リピーターを獲得するにはね、目玉施設があったほうがいいと思っていました。しかし、事業者のグループ、東海大学、さまざまな意見でそれは議論があった。そして、それを私たちは見守らせていただいた。その過程の中で最終的にこのような提案になったことを、私は歓迎したいと思っています。

◆NHK

じゃあ半年前はその小さな水槽を並べることの異議を、目をむいて反論されていたのは何だったんでしょうか。

◆市長

反論はしておりません。私はその時、経済情勢の中でまず事業者が前向きになってもらうということが大事だと承知をしたので、その時は議論の推移を見守るための発言をさせていただきました。それ以上でも、それ以下でもありません。私がぶれたというのは間違いです。

◆NHK

大型水槽は必要ないという発言、議事録にそういう趣旨で残ってますけれども、議事録というか会見録ですね。

◆市長

残ってますか？

◆NHK

「大型水槽を作る必要があるのかどうか、コストの面との勘案が大事だ」と。「大きな水槽にするという方法もあるだろうし、他の方法もあろうかと思う」と。

◆市長

そういうことです。

◆NHK

はい。

◆市長

そういうことですよ。

◆NHK

で、結局、大型水槽なんですね。

◆市長

そういうことです。

◆NHK

半年で変わったと受け止めました。そして、これ当初9,500㎡、延床面積というのが市の方針だったと思います。これ、結局その予算で作り切れなくて、ダウンサイジングしたということじゃないんでしょうか。

◆市長

記者ね、大型水槽があるという事実の中で、やはり事業者の事業継続性、そういう点ではどちらのほう事業性の確保ができると思いますか。ご所見を聞かせてください。

◆NHK

どうして9,500㎡という当初の方針が変わったんですか。

◆市長

統括監お願いします。

◆海洋文化都市統括監

本市が想定しました、予算計上した建物の施設の規模、これは今、記者がおっしゃったように9,500㎡で、水量約1,000トンで、これを基にですね、他の水族館の実績を基に予算額を計上させていただきました。で、今回、今、ご説明しましたように、面積9,500㎡から8,500㎡と1割ほど縮小しておりますけれども、これにつきましては、先ほど市長が説明しましたように、オープンバックヤード、本来であれば作業員だけの作業スペースなんですが、これを来館していただく皆さんと交流、触れ合いができるような展示、ちょっと言葉は悪いんですけども、作業員、飼育員の方も一応展示物ということで、そこで見せるという、見せる、参加できるオープンバックヤードとしての機能を確保する。さらに言いますと、1階には国際会議もできるプレゼンションルームというのも設けるんですが、それをイベントと連動したいいわゆる交流エリアと、いわゆる機能の複合化を図ることによって本市が求めていました要求水準、これを確保することができる。これにつきましては事業者の選定審査会、さらには本市の委員会においても、その提案が妥当ということで、この提案を認めていただきました。従いまして、実際のところ建物の規模は縮小しておりますけれども、機能がコンパクトになったということでございます。以上です。

◆NHK

オープンバックヤードとおっしゃいますが、そんなものは東海大水族館にも松坂屋水族館でもやっていることで、水族館経営の上で裏側も見せるってコンテンツとして当たり前ですので、それを何か新しい話のようにおっしゃったのは非常に違和感残りますが…

◆市長

そんなものなんて言い方失礼ですよ。

◆NHK

でも、新しい考え方ではないですよ。

◆市長

そんなものなんて言い方は慎んでください。

◆NHK

で、それを新しい考え…

◆市長

そんなものという言葉は撤回してください。

◆NHK

新しい考え方のように示すのは、私はおかしいと思います。

◆市長

自分の立場に拘泥するのは分かります。でも、記者もやはり多角的な論点からこのことを報道してほしいし、示してほしい。

◆NHK

あの私…

◆市長

P F I 事業としてとにかく事業に参画をする、そのためには何が必要なのか、そういうところにも思いをはせて、ご質問をしていただきたい。

◆NHK

この海洋ミュージアムの話について、私ほど多角的に報道してきた記者はいないと自負してます。私の解説全てウェブ上に残ってます。ぜひご覧ください、市長も。

◆市長

見解の違いです。

◆NHK

そして、何も無い広場を市長は自由度の高い空間と誇らしげにおっしゃいましたが、要は何も作らないだけ、その分面積を縮めただけだと思います。どうしてこれで想定利用者数を、そのままいけるのでしょうか。

◆市長

見解の違いです。私たちはそういう目標を持ってこれから各方面連携で、Win-Winの形で取り組んでいこうと、そう決意をしています。

◆NHK

もう一度伺います。どうして想定入館者数を従来と、3年前と同じままでいけると考えられるのでしょうか。

◆海洋文化都市統括監

よろしいですか。

◆市長

どうぞ。

◆海洋文化都市統括監

事業者がここに、付属資料1にあります入館者数につきましては、事業者が他の水族館とか博物館等の、その実績を参考にして、本市が推定した入館者数が妥当と判断したということでございます。以上です。

◆NHK

ひとまず結構です。ありがとうございます。

◆司会

その他、読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

すいません、海洋文化施設じゃないんですけど、最初におっしゃったNPBの件でお伺いしますが、静岡でのチームづくりを計画されている報道されております東京のハヤテインベストメントから、市のほうに具体的な接触はあったのでしょうか。

◆市長

先ほども申し上げました通り、昨日の話ですので、今はお答えを控えさせていただきます。

◆読売新聞

ないってことじゃなくて控えるっていう。これ、まだないってことですか。

◆市長

それはハヤテインベストメントさんも静岡と希望している以上、この市場のマーケティングをしているということを想定していただけたらと思います。

◆読売新聞

例えば、申し出が具体的にあった時に、庵原球場の利用とか、あるいは2軍用の施設の敷地の紹介みたいなことは、ご協力なされる心づもりあるってということでしょうか。

◆市長

おっしゃる通りです。

◆読売新聞

ありがとうございます。すいません、ついでにもう一度聞きますけど、海洋ミュージアムで、この仮称っていうのは、いつ頃正式名称になる予定かっていうのは、誰が決めるとか、そういうことについて見通しはありますか。

◆市長

これは、私は承知してませんが、どうでしょうか。

◆海洋文化都市統括監

海洋文化都市統括監の杉山でございます。このミュージアムの名称につきましては、今、具体的にこうするというのが現時点ではないんですけれども、市民の皆様にご愛さっていただくという観点からはですね、名前を募集するとか、今後そういうことで決めていきたいと考えております。

◆読売新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他、海洋・地球総合ミュージアムの関係でご質問よろしいですか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。すいません、この沖合大水槽についてお伺いしたいんですけども、先ほど市長、駿河湾のサメなどとおっしゃいましたけれども、水族館でいうと目玉の魚だったりとか、そういうのがあると思うんですが、これは目玉というのはサメになるんでしょうか。それとも、あと他に具体的な魚を今、提案の中で言えるものがあれば、教えていただきたいんですが。

◆市長

これ実務的に答えていただけますか。私が目玉といったのは、とにかく巨大水槽だと。で、ここにはいろいろ器が大きい分ね、応用度が高くなるという点が魅力であるということではありますが、何か捕捉することがあればお願いします。

◆海洋文化都市統括監

飼育する水生生物につきましては、今後、東海大学さまと最終的には協議して入れるんですけども、事業者からは、まず、やはりシュモクザメというような大型の魚類を入れたいということでございます。以上です。

◆テレビ静岡

サメ以外に何か、事業者から提案っていうの何かありますか。

◆海洋文化都市統括監

それ以外だとソウダガツオとか、マアジ、マイワシなどでございます。

◆テレビ静岡

あと、ここに入る魚っていうのは基本的には駿河湾に生息している魚ということですか。それとも他の海から持ってきてっていうことも考えられるんでしょうか。

◆海洋文化都市統括監

すいません、基本的には駿河湾で生息する魚類を展示するという考えでございます。

◆テレビ静岡

すいません、あと1点だけ。国内で水量がベスト5とおっしゃいましたけれども、これは5位ということで、それは何によるとというか、どのデータを根拠にしてというか。

◆海洋文化都市統括監

この国内5というのはですね、インターネットの「大水槽ランキング」を参考にして調べたものでございます。それと直接各施設のホームページで確認したというものでございます。ちなみに、1番が沖縄の美ら海水族館、これがデータから言いますと7,500トン。2番目が海遊館、これは大阪ですね。5,400トン。3番目が葛西臨海水族園、これが2,200。で、今時点で4番目が能登島の臨海公園水族館1,600トンということで、今回この本施設の整備によってベスト5に入るということでございます。

◆テレビ静岡

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、海洋・地球総合ミュージアムの関係で、NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

すいません。今の統括監のお話に関連して、ネット上の水槽ランキングというのはどういうページなのか。インターネットの情報、玉石混合ですので、市が何を根拠に、この公的な会見で情報発信をしてるのかという信頼性に関わりますので、明示していただけますか。

◆海洋文化都市統括監

確かに記者がおっしゃったように、ネット上で調べた結果ですので、例えば、そういう水族館の協会とかですね、そういうところで確認しながらしっかりした情報を伝えていきたいと思っております。今はこのネットで調べた結果、今回、整備することによって、5番目（注：4番目）になるということでございます。

◆NHK

すいません、田辺市長はネット上の誰が書いてるか、どういう根拠かも分からない民間の人が書いた個人ページのようなものを参考に、今、公的に発信して

らっしゃるんでしょうか。

◆市長

私が申し上げたかったことは、全国有数の巨大水槽を要するミュージアムになるということを申し上げているわけです。

◆NHK

ファイブに入ると市長おっしゃいましたが、その根拠が。

◆市長

それは所管課のほうからそういうことだという報告があったから、私はそれを申し上げた。

◆NHK

で、そういった公的な情報によらずネット上の情報、ご承知の通りフェイクもあれば個人の勘違いもいっぱいある中で、そういった本当に個人のページを参考に、今、公的に発信されたということですか。

◆市長

それは精査をさせていただきます。しかし、そこはそんなに今日の発表の中で重要な論点ではないと私は承知しています。

◆NHK

いえ、ニュースとしてベスト5に入る大水槽がというのは、十分見出しになり得る話ですので、それが本当に市の発信が正確なのかどうなのかは検証させていただきたいんですが、いかがでしょうか。

◆市長

検証してください。私どもも検証いたします。

◆NHK

市長は自信あるんですね、ベスト5というのに、表現について。

◆市長

大丈夫ですよ。大丈夫です。

◆NHK

その根拠は個人のページですか。

◆市長

海洋文化都市がそういうことでおっしゃってるんでね、それを私はやっぱり。

◆NHK

じゃあ、そのランキングが載っていたページの名称教えていただけますか。

◆海洋文化都市統括監

確認してお答えします。

◆NHK

ちょっと別のこと伺いましょうか。これもすでに伺ってる質問ですけども、運営15年後以降の20年後、30年後は、この施設どうなるとお考えなんですか。

◆市長

それはその時また事業者が、このミュージアムの事業に魅力を持てば、様々な動きが出てくるんだろうと承知をしております。

◆NHK

市長としては20年後、30年後のビジョンないということは、これまでの発言通り変わらないですか。

◆市長

そうですね、私はやっぱり今、4次総の策定をしておりますので、まず2030年までということで、その後は次の世代に委ねたいと思っています。

◆NHK

分かりました。もう一つ関連して、今日、午後に行われるこの海洋文化都市に関するこのミュージアムのことについても話されるというセミナーについて、早くも田辺さんに批判的な方からは、「こんなのいつ参加者を募ったんだ」と、「200 人事前申し込みしてすでに募集を締め切ったというのはどういうことだ」と、「市長はそうやって仲間内だけで盛り上がって市民の期待を集めているという声を上げ続けるつもりか」と、あきれられる声が出てるんですが、市長、

この経緯についてご説明をお願いします。

◆市長

そういうご意見もあるんだろうなというふうに受け止めました。

◆NHK

市も公金を費やして開かれるセミナーが、一般に開かれてないことについてはどうお考えなんでしょうか。

◆市長

記者、先ほど申し上げていることと同じです。もう少し大局的な見方ということをも身に付けてからご質問していただきたいと、お願いをいたします。

◆NHK

で、市が公金を費やしているセミナーが一般に開かれてないこと、それについて反発の声が上がってることは、市長はどう受け止めてらっしゃるんでしょうか。

◆市長

それは民主主義ですからいろんな声があります。賛成反対。

◆NHK

大局的な視点をと、かなり今、大上段におっしゃいましたが、では、この海洋ミュージアムの20年後、30年後のビジョンを、市長は示せるんでしょうか。

◆市長

記者、先ほど事業者や東海大学がいろいろ議論して、そしてこういう形のプロデュースしたものに対して「そんなもん」という言い方は失礼です。撤回してください。

◆NHK

すいません、今、話をすり替えましたね。

◆市長

いやいや、すり替えるどころじゃない。私から、それは撤回してください。それ以上じゃなければ、あなたの質問にはもう答えたくありません。

◆NHK

私はバックヤードを見せることが…

◆市長

だから、そこではないでしょう。質問をすり替えないでください。

◆NHK

私は発言した理由を述べています。

◆市長

そんなもんかというふうに思うんですか。

◆NHK

新しい話ではないと思ってます。

◆市長

はい、分かりました。

◆NHK

そして大局的なと唱える市長が、20年後、30年後、この170億円をかける施設の姿がどうなっているか、これは大局的に示せないのでしょうか。

◆市長

公的な記者会見ですのでこれ以上私は言及できませんが、あなたもこの公的な定例記者会見で物事を発言する一人でありますので、今までもありました。本当に気をつけていただきたいということをお願いいたします。

◆NHK

そうですね、公的な会見で私、市長から、もう二度、三度と謝罪を受けてます。

◆市長

あなたは謝罪しないんですか。

◆NHK

私は、私の質問してる意図を説明しております。

大局的な、とおっしゃいましたが、大局的な20年後、30年後のビジョンは

いかがでしょうか。

◆市長

前回の発言でも大変失礼だったと私は思っていますけど。

◆NHK

何が失礼だったんでしょう。

◆市長

それは、今日はもう言及しません。以上です。

◆NHK

人のことを失礼とおっしゃる以上は、何が失礼だったのか教えてください。

◆市長

後ほど申し上げます。

◆NHK

20年後、30年後、どうなってるかを問うことが失礼なんですか。

◆市長

違います。

◆NHK

何が失礼なんですか、おっしゃってみてください。

◆市長

後ほど、会見が終わったら申し上げます。

◆NHK

市長、今、説明できないから逃げようとされてますね。

◆市長

そんなことはありません。

◆NHK
では何を。

◆市長
ここではふさわしくないからです。

◆NHK
では、失礼とおっしゃったこと自体がふさわしくないんじゃないですか。

◆市長
見解の違いです。

◆NHK
市長、卑怯じゃないでしょうか。自分では一方的に記者を責めることをおっしゃって、その説明をご自分ではなさらない。何も失礼についても、その大局的なビジョンについても何も説明ができないということですね。

◆市長
今は他の記者の皆さんもいらっしゃる場ですので。

◆NHK
市長がお答えになれば、私この質問終われます。

◆市長
何を答えればいいんですか。

◆NHK
何が失礼なのか、そして、20年後、30年後のビジョンはどうなっているのか。

◆市長
20年後、30年後のビジョンは先ほど答えた通り、次の世代に委ねたいと思います。

◆NHK
そして、何が失礼なのかは説明できないということですね。それだけ確認できれば、私、この質問終わります。

◆市長

何を言っているのか、よく分かりません。

◆NHK

説明できないということですね。でしたら大塚さん結構です。市長が根拠なく失礼ということ、一方的におっしゃったということだけ会見録に残していたければ結構です。以上です。

◆司会

その他ご質問ありますか、この件で。

では、幹事社質問に移りたいと思います。中日新聞さん、よろしくお願いいたします。

◆中日新聞

幹事社の中日新聞です。よろしくお願いいたします。幹事社から2点、来年春の市長選に向けてお伺いしたいと思っております。まずは田辺市長の進退についてというところで、一部報道で不出馬という投稿が取り上げられましたが、おそらく今までの慣例ですと、12月2日の一般質問、代表質問でお答えなさるのかなと思うのですが、それまでに、新たに場所を設けて、何か言及されることがあるのかというところが1点目と、もう一つは、すでに難波さんと山田さんのお二人が出馬会見をされていますが、それに関して、何か受け止めがあればお伺いしたいです。お願いします。

◆市長

大きく3点質問を頂いたと承知をいたします。まず、現時点で出馬の意欲は変わりません。そして、その表明については、しかるべきタイミングに最終的な決断に向けて協議を進めているところでありますので、しかるべきタイミングに発表したいと考えております。

それから難波さんの出馬表明についてですけれども、難波さんは全国、様々な都市で生活をされたご経験をお持ちです。その難波さんが会見の中で静岡市が大好きで、ここに住み続けていきたいんだとおっしゃっていただいたことは、やはり静岡市は素晴らしいまちなんだな、と改めてうれしく感じました。

◆中日新聞

山田さんの会見について何かあれば。

◆市長

あまり承知をしておりませんが、山田さんも山田さんの静岡市に対する思いを表明されたんだろうと思います。

◆中日新聞

分かりました。1点目の答え、もう一度、何とおっしゃったか、お伝えしていただいてもいいですか。出馬表明の件で、もう一度お願いします。

◆市長

出馬したいという意欲は変わりません、ということを申し上げました。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

この幹事社質問に関連しまして、ご質問ありますでしょうか。いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

市長、しかるべきタイミングというのですが、たぶん自民党の市議団のほうは12月2日の代表質問に対する答弁と捉えてらっしゃいます。それは明らかにできないんですかね。それはもういいんじゃないですか、12月2日に、態度を表明するつもりだというの、今おっしゃっても。

◆市長

私、いろいろなご関係の方々、いろいろなご意見があります。それを承っております。当然、最終的には自分が決断しなければなりません。私は、先人の皆さんの書物に触れたり、様々な、自己との対話ということもしております。そういう中でどう決断をするべきか、ということについては、やはり、しかるべきタイミングという申し上げ方で、お許しを頂きたいと存じます。

◆司会

その他、この関連のご質問はいかがでしょう。よろしいですか。残り3分程度になりましたけれども、その他のご質問があればお受けします。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

朝日テレビです。よろしく申し上げます。冒頭でもお話あったんですけども、プロ野球で2軍の球団を公募するというお話ありまして、静岡市としてですね、これからの話だと思うんですが、どのように、これに協力というか、取り組んでいくか、そういう姿勢をお尋ねしたいのと、冒頭でもあったんですけども、受け止めについて、改めて、もう1回聞いてもよろしいでしょうか。

◆市長

これからのことですのでね。これから実務的な議論が進んでいくだろうというふうに思います。ただし、そのご質問に対して私たちはもとより、4次総でもスポーツを通じたまちづくり、市民の心を一つとするプロチーム、その存在というのは非常に大きいと思います。ですから、歓迎したいという姿勢で、これから様々、議論を深めていきたいと思っています。

◆静岡朝日テレビ

やはり期待は大きいですか。

◆市長

そうですね、やっぱりサッカーはJ3まで裾野が広がって、「よし、自分もプロになれる。Jリーガーになれる」と、子どもたちが、たくさん夢を持って頑張っています。結果、静岡や埼玉、我々が高校時代の時だけでなく、本当に全国津々浦々に選手が育ってきました。その裾野の拡大をするという今回のNPBの考え方は賛同するし、門戸が広がることになりましてね、子どもたちにとって。プロ野球選手になりたいという夢をかなえるチャンスが広がるということですので、それを私は大変うれしく思っています。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

それでは予定の時間が過ぎましたけれども、最後に事務局から捕捉を、すいません、説明をさせていただきたいことが、1件あります。

◆海洋文化都市政策課長

海洋文化都市政策課長の谷川原です。先ほどのNHKさんの質問に関連してですけれども、大水槽のランキングベスト5というところの調べなんですけれ

ども、もともとはネット上のランキングのサイトを参考にしたんですが、その中身について各水族館等のサイトで確認した上で、これは静岡市の独自調べというような形で、ご理解いただければと思います。ネットをうのみにして集計しているわけではない、ということになります。

◆NHK

その基となったネット上のランキングサイトに、他に漏れがないことは確認できるのでしょうか。

◆海洋文化都市政策課長

そのへんは我々のほうで調べられる限りで漏れがないかどうかというのは、チェックはしております。100%ないかどうかというと、静岡市独自の調べですので、そのへんは100%ということではないとは思いますが。

◆NHK

わかりました。結論としては静岡市の独自調査ということで承知しました。

◆海洋文化都市政策課長

ありがとうございます。

◆司会

それでは定刻を過ぎましたので、本日の会見はここまでとさせていただきたいと思えます。次回は12月13日の火曜日、午前11時からの予定となります。本日はありがとうございました。

◆市長

ありがとうございました。